

11月例会「タイピスト！」

「全国映連・中津川フェス」の参加報告など

例会のお知らせ

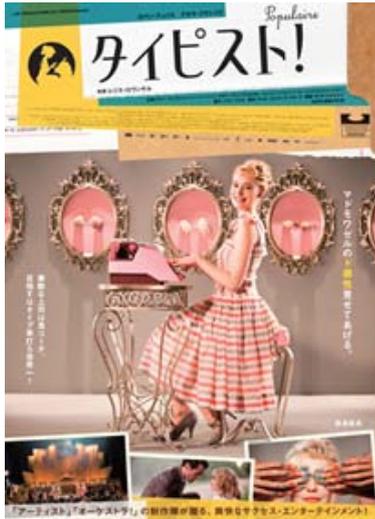
■名称／第75回例会『タイピスト！』

■日時／11月12(水) ①PM 2:00ー、②PM 4:20ー、

③ PM 6:40ー

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡してください。



入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／タイピスト！(原題／POPULAIRE)

■監督／レジス・ロワンサル

■出演／ロマン・デュリス、デボラ・フランソワ、ベレニス・ベジョ、ショーン・ベンソン、ミュウ＝ミュウ

■データ／2012年、フランス、111分、

ドラマ／ヒューマン

■解説／1950年代フランス。女性たちは自由を求めて社会へ飛び出そうとしていた。そんな彼女たちの憧れNo.1の職業は「秘書」。その中でももっともステイタスを得られるのは、当時一大競技として人気だった「タイプライター早打ち大会」で勝つこと。ドジで不器用なローズは、秘書になるため各国代表とタイプでオリンピックさながらの闘いに挑むことになるがー。

『アーティスト』『オーケストラ！』の制作陣が結集。タイプ早打ちの知られざる、しかし、過酷な死闘を繰り広げる競技の白熱シーンの驚きも話題となり、本年度セザール賞5部門にノミネートされた。天然系キューートなヒロイン×ポップな50年代カルチャー×興奮

と感動のスポ根。エンターテインメントが誕生した！
(作品ホームページから抜粋)

2011年1月の例会で鑑賞した『オーケストラ！』は、この作品と同じスタッフキャスト質の高い音楽と演技で、観る人を映画の中に引き込んでいった名作でした。

「全国映連・中津川フェス」参加報告

10月11日と12日、岐阜県中津川市で開催された全国映連・秋の交流集会・中津川フェスに参加してきました。中津川といえば1970年頃に「フォークジャンボリー」で一世を風靡した町で、その仕掛け人だった**笠木透**さんが講師の一人でした。70歳を超え、杖もついていましたが、いたって意気軒昂で実に面白い歌と話で



戦争へと向かう今の時代を告発していました。歌はうまいとはいえませんでした。が、気持ちを込めて伝えたいこと

を歌う力は相当なもので、もっともっと聞いていたいと思いました。

また、**澤登翠**さんは見事な活弁を披露してくれました。『**大学は出たけれど**』(たぶんダイジェスト版)など3作品(ハリウッドのドタバタ劇、時代劇、現代劇)それぞれに面白い作品でもありました。



澤登翠さん

もう一人の講師はノーベル賞に沸く名城大学の工学博士**水尾衣里**先生で、都市計画学から街作りと映画の関係について、フィルムコミッションのことなど語ってくれました。

3人の講義で満腹状態となり、フェス恒例の各地との交流は少ししかできませんでしたが、面白く、勉強になったフェスでした。北海道から九州まで70名弱の参加がありました。

二日目午後はオプションで、長野県から岐阜県への県境を越えての合併で話題になった馬籠で散策を楽し

みました。地元のガイドさんがついてくれたお陰で、島崎藤村のお墓も見せてもらったりして、馬籠を満喫することができました。(健)

来年の全国映画連の事業は、7月の映画大学には愛媛県今治市で、秋のフェスは新潟県上越市で開催予定です。興味のある方は、運営委員にお訪ねください。

「何を怖れる-フェミニズムを生きた女たち-」

10月18日に三宮で、松井久子監督のドキュメンタリー映画『何を怖れる～フェミニズムを生きた女たち～』の試写会があり、参加してきました。

日本を代表する14人のフェミニストたちをインタビューしたドキュメンタリー映画です。70年代初頭に始まったリブ運動からほぼ40年。この当時中高生だった私は、ウーマン・リブの言葉はしっけていても、自分勝手な人たちのことで自分には関係ないと深く考えたこともなく、就職を目の前にやっと、(その頃には女性をとりまく環境も大きく変わってきていましたが、まだまだ女性への就職差別はたくさんで)、女性の地位向上や人権、権利について考えるようになりました。この映画では女であることを愛し、共感し、つながって、それぞれの立場で活躍してきた今60代前半から80代の彼女たちが、生きてきた歴史と人生の厚みが語られていました。おりしも、妊娠や出産を理由とした降格については、男女雇用均等法に反するとして最高裁が初判断!というニュースが流れました。これは、彼女たちが、その一歩を踏み出してくれたからこそ得られた、うれしい判決です。

当日は、松井久子監督も来神し、製作への熱い思いと資金集めのエピソードを語ってくださいました。2時間のドキュメンタリー映画なのにあっという間に時間が過ぎました。

出演者：池田恵理子、井上輝子、上野千鶴子、加納実紀代、桜井陽子、高里鈴代、高橋ますみ、滝石典子、近山恵子(駒尺喜美)、中西豊子、田中喜美子、田中美津、樋口恵子、米津知子(五十音順) (山本和)

今思うこと(編集後記)

このニュースを作るにあたって、お知らせすることが多い時は、文字を埋めていけばいいので、何と館なるのですが、そうでない時は困るのです。今月は、そうでした。そんな中、電子メールで2件の寄稿がありました。たいへんありがたく感謝します。

会員数の伸び悩みによる会費収入の微減のほか、消費税アップによる支出増により、この会の運営が赤字になりそうです。会員の皆さんには、引き続き映画好きの人に入会を呼びかけていただきますようお願いい

たします。

今秋の映画館の案内を見ていると、どうも観に行きたくなる作品が少ない。地元のシネコンの上映スケジュールもそうです。しかし、例会作品は、まずまずのレベルを維持できているように思います。最近は、交流事業のこともあり明石シネマクラブの作品も気になるようになりました。(宮)

前回例会の報告

9月18日の例会は、目の不自由な青年が、ピアノ音楽台湾の青春映『光にふれる』を鑑賞しました。

生まれつき目が不自由ながらたぐい稀なピアノの才能を持つ青年が、家族や音楽大学で出会った仲間たちと、いくつもの苦労を味わいながらも、音楽と人間のすばらしさを知っていくというヒューマンドラマでした。台湾映画らしくポップでコミカルな場面もありました。良質な作品と参加者からも好評の声が多かった。

参加会員105人、明石シネマクラブから7人参加。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／『あなたを抱きしめる日まで』

(2013年、イギリス、98分)

■日時／12月10日(水) ①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所／アスパア明石9階子午線ホール (JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、

例会に相互参加できるようにしています。(2015年5月まで、好評であれば延長します。)

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 154人(9月18日現在)

